

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価 (3月18日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、キャリア教育の視点から教育課程の統一と見直しを図り、生徒が主体的に取り組む授業作りを行う。	生徒一人ひとりの障害の状況や発達段階を的確に捉え、新学習指導要領に沿ったカリキュラムマネジメントを推進していく。	① 校内研究を通じ、「指導の見える化」を行う。適切なねらい、授業内容、環境設定を教科会や研究日を通じ協議し、これからのカリキュラムを検討していく。  ② 生徒と共に授業を振り返ったり、専門職の助言を活かしたりしながら、生徒一人一人の実態に合った授業改善に取り組むとともに、教員の専門性の向上を図る。	① 授業略案の活用等、授業改善のシステムを構築できたか。また、新学習指導要領、生徒の実態に応じたシラバスを作成できたか。  ② 生徒と共に授業を振り返ったり、専門職の助言を活かしたりしながら、生徒一人一人の実態に合った授業改善を図れたか。また、教員の専門性向上が図れたか。	① 指導略案を所定の場所に提出し、授業アドバイザーをはじめ様々な教員が授業を見に行くというシステムが定着してきた。新しいカリキュラム実施に向けて教育目標や、めざす生徒像の確認を全職員で行った。シラバスの型は学習指導要領を参考に作成した。  ② 校内研究で「岩戸スタンダード」として「振り返り」を全校で検討し、授業改善に活かすことができた。	① 指導略案提出のシステムは整ったが、全員が活用しているとはいえず、アドバイザー以外の助言は少なかった。様々な教員が積極的に授業を見合う意識が必要である。  ② 授業の振り返りについては、多様な考え方があった。岩戸養護学校として、めざすものを作り、共有していく必要がある。	《保護者アンケート結果》 楽しく学校に通っていますか？ 思う・ほぼそう思う→87.1% 学習内容は適切でわかりやすいか？ 思う・ほぼそう思う→90% 一貫性のある教育をおこなっているか？ 思う・ほぼそう思う→91.4% 《学校運営協議会》 全職員が一体となって教育目標や目指す生徒像を確認し、授業改善につなげることができたのは、とても大きな改善だったのではないかと。	・校内研究を通じ、「指導の見える化」の実践による、授業改善に取り組み、それぞれの授業を見合い、改善につなげることができた。 ・授業案を提出して、アドバイザーなどに意見をもらい、改善していく仕組みもできつつある。 ・めざす生徒像を再確認し、カリキュラムマネジメントに全職員が取り組むことができた。めざす生徒像から、教育課程を考えることで、改めて生徒一人一人の実態に即した授業改善の重要性を認識することができたが、さらに、授業内容、学習評価については検討が必要である。	・授業案を提出し、アドバイスを受けながら授業改善につなげていく仕組みについては、今後も継続して行うことで、さらに、教員の専門性向上につなげていきたい。 ・カリキュラムマネジメントにさらに全教職員で取り組み、改善していく仕組みもできつつある。 ・「岩戸スタンダード」をさらに充実させ、授業改善、岩戸養護としての授業評価、振り返りについて検討していきたい。
2 生徒指導・ 支援	生徒一人ひとりの人権に配慮し、個別の教育的ニーズに応じた指導・支援を計画的、組織的に行う。	多職種が連携し、多面的に実態を把握し一人ひとりのニーズに応えるために情報共有の仕組みを構築する。	① 様々な校内外の資源を有効に活用し、個々の生徒に応じた適切な個別の支援計画を作成する。  ② コミュニケーションの授業等を通して、人権意識の醸成を図る授業モデルを提示する。また、研修を通していじめの未然防止、早期発見に努め、生徒、保護者からの相談に対応する。	① 校内外の資源を生かしたケース会が開催され、有効に活用されたか。本人・保護者と適切に課題を共有し、適切な支援計画が作成できたか。  ② コミュニケーションの授業等を通して、人権意識の醸成を図る授業モデルを提示できたか。また、相談に早期対応、いじめの早期発見、早期解決できたか。	① ケース会では、校内専門職や部門長が参加し、一人ひとりの目標や課題を確認し、情報を共有しながら意見交換を行うことができた。  ② 生徒の実態に合ったコミュニケーションの授業でロールプレイ等の技法を使い、人権意識を高める分りやすいう授業を行うことができた。生活アンケートや面談でいじめやトラブルへの早期対応ができた。	① 個別教育計画のケース会開催方法を改善し、更なる確かな話し合いを実践したい。福祉連携が必要な生徒のケースシステムを確立し、タイムリーな相談・支援につなげる必要がある。  ② 生徒の実態によりグループ分けしたコミュニケーションの授業を行ったがまだ授業モデルのは確立には至っていない。ロールプレイの技法を活かしたモデルを次年度も更に構築していく。	《保護者アンケート結果》 個別教育計画に基づいた教育活動か？ 思う・ほぼそう思う→88.6% 個別に相談しやすいか？ 思う・ほぼそう思う→88.6% 適切な生徒指導を行っているか？ 思う・ほぼそう思う→97.1% 《学校運営協議会》 人権意識向上に向けた授業は、今後の生活に役立つものである。 連携が必要な生徒のケース会システムは非常に良い施策である。	・看護師、PTなどの校内の専門職だけでなく校外の専門職も活用したケース会の開催などは、教員の専門性の向上にもつながるものである。 ・今後は、個別教育計画のケース会開催方法を改善することで、さらに様々な視点で生徒の実態を把握し、実態に沿った目標設定を行っていききたい。 ・ロールプレイ等の技法を活用したコミュニケーションの授業では、人権意識を高め、卒業後の生活に役立つ知識技能を身につける授業を行うことができつつあるが、多様な生徒の実態に即した授業モデルの確立は、今後も継続して検討していく必要がある。	・生徒の実態が多様化する中で、今まで以上に生徒一人一人の実態をしっかりとらえ、それに即した目標設定、授業内容の検討などを行うことができるように、さらに多職種が連携する必要がある。 ・昨年度から取り組んでいる「岩戸スタンダード」を、多様な実態の生徒の中で活用できるスタンダードにしていくための授業モデルは、今後も継続して取り組む必要がある。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月18日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの自己実現をめざし、自ら選択、決定できる進路指導・支援を行う	自立と社会参加に向け、将来の生活をイメージし、系統的なキャリア教育を推進する。	① 生徒・保護者の思いや願いを聞きとり受け止め、一人ひとりにあった進路指導、支援を組織的に行う。 ② 系統的、段階的に卒業後の生活をイメージし、自分自身の適性を知ることができる進路学習、進路指導、支援を行う。	① 生徒・保護者の思いや願いを聞きとり受け止め、一人ひとりにあった進路指導、支援を組織的に行うことができたか。 ② 系統的、段階的に卒業後の生活をイメージし、自分自身の適性を知ることができる進路学習、進路指導、支援を行うことができたか。	① 話し合いを重ねながら一人ひとりに合った実習先を決定、実施した。また、必要に応じて個別に面談を実施し、生徒、保護者、担任と共通理解を図りながら進めることができた。 ② 進路学習では、企業や福祉事業所で卒業生が働いている様子を撮影し、わかりやすい資料を作成できた。その動画を見ることで卒業後の働く意識を持つことができた。	① 実習や進路先決定について保護者と円滑に話し合いができるように実習希望表の提出時期や進路面談を行う時期、回数などについて担任や学年、進路担当の意見を聞き検討を行っていく。 ② 今後も企業や事業所を訪問し、映像資料を増やしたい。近年の卒業生だけではなく、地域の企業、事業所に積極的に依頼し、授業や卒業後の進路選択に生かしていけるようにする。	《保護者アンケート結果》一人一人に応じた進路指導が進められているか？ 思う・ほぼそう思う→91.4% 自立と社会参加のための力は伸びているか？ 思う・ほぼそう思う→90% 《学校運営協議会》卒業後のアフターフォローは、少なかったように感じる。就労援助センター等、支援機関との連携も図っていただきたい。進路選択に当たっては、より多くの職種、業種の中から自らが選択することができるような工夫を重ねていって欲しい。進路の手引きは、生徒用にわかりやすい内容のものを作ってほしい。	・保護者や生徒との丁寧な話し合いを積み重ねることによって、一人一人に合った進路指導を進めることができた。 ・一人一人の実態にあった実習や進路決定については、今後も進路面談の時期や回数を見直すなど、保護者、生徒の意見をより反映できる進路指導にしていきたい。 ・コロナ禍において、今までと同じような進路先見学等ができない中で、動画等を使ったわかりやすい資料を作成する等、卒業後に働くイメージを持たせるような進路指導を充実させることができた。	・3年間を見据え保護者、本人の意見がより取り入れられるような進路面談の在り方を、検討していきたい。 ・卒業後の進路選択については、進路面談等を活用した情報提供と情報共有とともに、映像資料や手引きなど、生徒自身がわかりやすい資料を活用した進路情報の共有、進路学習の積み上げ等を行い、一人一人の実態に合った進路支援を計画的に進められるようにしていきたい。
4	地域等との協働	インクルーシブ教育の推進を図るために、校内教職員・保護者・地域の理解促進、地域諸学校、諸機関への発信、貢献活動を行う。	「地域に開かれた学校」を意識し、校内外の資源を活用した教育活動の充実に向け、地域への発信を推進する。	① 学校HP、支援だよりなどを活用するなど学校情報を積極的に発信し、地域に開かれた「お互いが見える」関係づくりに努める。 ② 地域の多様な相談内容に対し、迅速に関係機関などと連携し対応する。	① 定期的にHP、学校だより、支援だよりの掲載を行い本校の活動情報について積極的に発信することができたか。 ② 地域の学校への巡回相談や地域の多様な相談内容に対し、関係機関と連携し、取り組むことができたか。	① 定期的に学校だより、支援だよりを地域の方々、地域の諸学校に配付し、学校行事や生徒の様子などの情報を発信することができた。 ② 中学校9件、高等学校2件の巡回相談を行い、関係機関や専門職と連携しながら取り組むことができた。	① 今後は、さらに支援だよりでは、学校行事や生徒の様子に加え、保護者が知りたい情報をわかりやすく提供できるように努める。 ② 本校だけではなく近隣学校の相談支援班や専門職と連携し、様々な角度から多くの意見交換を行うことでさらに充実した相談支援が行えるようにする。	《保護者アンケート結果》巡回指導等、地域貢献ができてきているか？ 思う・ほぼそう思う→72.4% 情報提供ができてきているか？ 思う・ほぼそう思う→97.1% 《学校運営協議会》コロナ禍ではあるが、学校運営協議会の対面開催をはじめ、企業見学など、積極的に活動できている。今後は、地域との連携について、食育推進という観点からもさらに進めてほしい。	・昨年に比べ、保護者や地域に向けた情報発信については、力を入れたことで、保護者アンケートの結果も非常に高くなった。 ・巡回指導等の地域貢献については、保護者にとってはわからないという声もあつたが、コロナの影響があり制約がある中、中学校、高等学校へ巡回指導を行うことができた。 ・三浦初声高校との連携は思ったようにできなかったため、次年度、改めて、食育推進の観点でも連携したい。	・ひきつづき保護者や地域に向けた情報発信は、よりわかりやすく学校の活動が伝わるような方法を考え、実行していく。 ・巡回相談等、保護者や地域にわかりにくい活動については、次年度以降、わかりやすい伝え方について考えるとともに、外部機関との連携を通じて、障害者が暮らしやすい社会づくりに貢献していきたい。
5	学校管理 学校運営	学校運営の組織的な体制と安全・安心な学校作りのための体制の構築を図る。	・働き方改革推進に向け、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ・様々な場面を想定し、体制と防災教育の充実を図る。	① 会議、行事の精選を図り、学校閉庁日、ノー残業デー設定し、働きやすい職場にする。 ② 現実に即した防災マニュアルの見直しを行うとともに、実効性のある防災訓練を実施する。また、学年と情報共有することで防災学習にも反映させていく。	① 会議、行事の精選、学校閉庁日、ノー残業デーの設定ができたか。 ② より現実に即した防災マニュアルの見直しをすることができたか。防災訓練が実効性のあるものになったか。また、訓練や防災学習を通じて生徒が自助の意識を持つことができたか。	① 5日間設定した学校閉庁日は、完全閉庁とすることができた。会議、行事の精選については、次年度以降も引き続き検討が必要である。 ② 生徒が自分の命は自分で守る意識や力をつけられるよう10月より毎月、様々な状況を想定したシェイクアウト訓練を導入した。また、災害用伝言ダイヤル171の訓練を2回行うことができた。	① 会議、行事の精選については、コロナ禍で縮小した業務中心にさらに精選し、オンラインも活用するなど、働きやすい職場づくりに努めたい。 ② 防災、防犯マニュアルの整備だけでなく、全職員への周知と理解をしっかりと固めたうえで訓練に臨むよう改善していく必要がある。	《保護者アンケート結果》安全な学校生活を送っているか？ 思う・ほぼそう思う→97.1% 感染症対策を含め、健康管理は適切か？ 思う・ほぼそう思う→98.6% 《学校運営協議会》働きやすい職場づくり、防災マニュアルの見直し、シェイクアウト訓練の導入など、幅広く活動ができていた。	・学校閉庁日は、完全閉庁とすることができ、ノー残業デーも浸透してきた。 ・今年度も昨年度同様、コロナの影響により、様々な業務を縮小せざるを得なかったが、今後は、効率的、効果的に業務を精選していくことが必要である。 ・シェイクアウト訓練は、抜き打ちで行うことができるようになってきた。そのことにより、生徒自身が防災について、より身近に考えることができるようになってきている。	・改めて生徒と向き合う時間を大切にするという働き方改革を推進する目的を全職員で共有し、校務の効率化を図っていきたい。 ・防災、防犯マニュアルを整備し、全職員が活用できるものとして備えることができるようにしていく必要がある。また、防犯については、次年度、教職員だけでなく、生徒も一緒に防犯訓練を行うことで、さらに防犯意識を向上させたい。